



バラとサツマイモの融合を目指す、先駆的なチャレンジ。

バラを使った芋焼酎づくり。バラで町興しを進める鹿屋市を大いにアピールできる事業だ。会社から許可を受けると、本業の合間に一人で研究を重ねる日々が続いた。

05年、計画は大きく前進する。日本一の面積を誇るバラ園（かのやばら園）がオープンし、鹿児島県工業技術センターの協力のもと、3社共同開発が実現したのだ。

バラとサツマイモの香りのバランス、予定より少ないバラの供給量、焼酎原料としてのバラを認可してもらうための

人工香料を一切使わずにバラの香りを楽しませる『薔薇の贈りもの』は、前例のない本格焼酎として業界関係者を驚かせた。軽やかな飲み口や優雅なバラのイメージは、日頃あまり芋焼酎を飲まない人や女性客といった新たなユーザーを開拓。関東や関西から

業界に衝撃を与えた前例のない焼酎『薔薇の贈りもの』。

厚労省への働きかけ……数々の難関を乗り越えた07年、大牟禮氏の足掛け7年の尽力はついに報われる。その焼酎は『薔薇の贈りもの』と名付けられた。

の引き合いも絶えないという。こうして大牟禮氏と大海酒造は、地域貢献への確かな一歩を踏み出した。それでも友人との約束を守った杜氏は、さらに気を引き締める。「味はもっと向上させられると思うんです」。鹿屋市をこよなく愛する職人たちの挑戦は、まだまだ終わらない。

(上) 商品開発の原動力となった杜氏の 大牟禮良行氏。鹿児島県本格焼酎鑑評会で3回受賞し、TV番組でも「日本一の杜氏」として紹介された。
(中) フーゼル油（芋の油分）を丁寧にすくう。根気のいる作業だが、品質が粗くなるのであえて機械は使わない。
(下) 『薔薇の贈りもの』は7年間の地道な研究の賜物。



ブルガリア産の高級なバラ<ロサ・ダマッセナ>で作った芋焼酎の逸品『薔薇の贈りもの』。原酒(37度)と25度の2種類で展開している。

〔鹿児島県・鹿屋市〕
ばら「焼酎」の開発、製造及び
「かのやばら園」を活用した需要開拓による地域振興
大海酒造協業組合

「バラで町興し」を目指す鹿屋市に貢献する方法とは？

99年に大海酒造の杜氏に就任した大牟禮良行氏は、以前友人が漏らした言がなぜか忘れられなかった。「せつかく大海で働くのだから、何か地元役に立つことを考えてくれよ」。

自分にはどんな貢献ができるのだろうか。そんな自問が続く中、鹿屋市役所に「バラを活かした町づくり推進室」が開設される。大牟禮氏は、これだと思った。



○活用する地域資源：鹿児島の焼酎、かのやばら園

Company Info.

鹿屋市発の躍進企業を支える良質のサツマイモと名杜氏。

設立は昭和50(1975)年。主力商品である『さつま大海』をはじめ、スッキリした飲み口の焼酎づくりが特徴。芋焼酎『海』は、全国的に好評をもって迎えられた。また鹿屋市は白砂台地であるため、良質なサツマイモが穫れる場所としても知られている。

近年の躍進は、99年に杜氏となった大牟禮良行氏に負うところが大きい。01・04・07年の鹿児島本格焼酎鑑評会での複数回受賞は、過去に例のない快挙。芋作りからこだわり、麹や酵母の研究にも余念がない名杜氏だ。



北山幸男さん／75年に大海酒造の理事に就任。04年以降は代表理事を務める。「敬天愛人」を座右の銘に、常に地域振興貢献を念頭に置いた企業運営を推進中。



大海酒造協業組合
鹿児島県鹿屋市白崎町21-1
TEL.0994-44-2190
<http://www.taikai.or.jp>